

# 飛躍

森町立旭が丘中学校 第3学年  
学年通信 第34号  
2021年 1月 5日 (火)  
文責 太田 雄司



## 明けましておめでとうございます



10日間の冬休みが終わりました。大晦日やお正月など楽しいことがたくさんありましたが、受検生に相応しい冬休みにすることができたでしょうか？目前に迫った大きな勝負に向けて確かな力を身に付けることができたでしょうか？



いよいよ中学校生活最後の3か月が始まりました。「進路実現」「感動の卒業式」という中学校生活最大の目標を実現させる3か月です。言い方を変えれば「人生において大きな転機となる大事な勝負をする3か月」「卒業に向けて、また義務教育9年間の仕上げとして、しっかりとまとめをする集大成の3か月」さらに「4月から始まる新しい環境での生活に向けて準備をする3か月」となります。受検という大きな壁を乗り越え、旭が丘中学校を巣立った先の4月からは、自分の選択で、決断力で、行動力で生きていかななくてはなりません。それに伴い、今まで以上に自覚・意識・責任が求められます。その準備のための最後の期間になります。今までの学習面や生活面など、一つ一つを振り返りながら義務教育の仕上げをし、胸を張って新しい世界へと踏み出せるよう、確実な準備を進めてほしいと思います。そしてそのために重要なことは、「目の前にあることに常に全力で取り組むこと」「今この一瞬を大事に積み重ねること」だと思います。この言葉は今までもあらゆる場面で何度となく言ってきました。つまりこれまでやってきたことと何ら変わりはないのです。

3学期の授業日数は今日も含めてわずか50日です。毎年学年通信で書いていますが、「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われるように、3学期の3か月はあっという間に過ぎてしまいます。3年生は入試等で登校しない日や早く下校する日もあるため、実際にはもっと短く感じるのではないのでしょうか。しかし、失った時間を取り戻すことはできません。入試の日や卒業式の日も変えることはできません。だからこそ、上に述べた2つのことをより高く意識してどの一日も無駄にしないように生活していく必要があります。短い期間だからこそ、勢いよくスタートをして、よいリズムを作ることが肝心です。最初からトップスピードで残りの3か月を駆け抜けてくれることを期待します。

短いとは言え、とても中身の濃い、重要な50日間になります。その一日一日を今まで以上に充実したものにし、3年生全員が笑顔で旭が丘中学校を巣立っていけるよう、職員一同、精一杯生徒をサポートしていくとともに、生徒とともに全力で毎日を送っていきたいと思います。保護者の皆様の御理解と御協力、御支援をよろしくお願いいたします。

## 「耐雪梅花麗 ～雪に耐えて梅花麗く～」

学年通信第3号でもこの言葉を紹介しました。プロ野球の広島カープやメジャーリーグでも活躍した黒田博樹さんの座右の銘です。受検という大きな勝負を控えているこの時期だからこそ、改めてここに紹介させていただきます。この言葉には次のような意味があります。

「梅の花は、冬の雪や厳しい寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせる。苦難や試練を耐えて乗り越えれば、大きく見事な成長が待っているというたとえ。大成するには忍耐が不可欠だということ。楽なやり方や生き方などできない。」

今からが頑張りどころです。耐え忍ぶ時です。苦しいことは当たり前。辛いことも当たり前。しかし、乗り越えられない壁なんてありません。その壁を乗り越えるからこそ強くなれるのです。だからこそ逃げるわけにはいかないのです。前に進むしかありません。

耐え忍び、乗り越える努力をし続けていれば、きっと「誰からも応援される受検生⇒卒業生」になれます。周りの人が味方になって力を貸してくれます。そうなれば、きっと3月に大きく、きれいな花を咲かすことができるはずですよ。



## ☆始業式の意見発表「3学期の目標」

<1組 野口ひとみさん>

私が3学期に頑張りたいことは主に2つあります。

1つ目は入試です。私は夏休みから入試の過去問を解いたり、1、2年生の内容を復習したりしています。特に苦手教科の数学と理科は基礎からもう一度確認をして、入試で確実に点が取れるように努力しています。また、入試では面接試験もあります。授業での練習だけではなく、日常から姿勢や声の大きさに気を付け、本番にしっかりできるように頑張りたいです。自分が希望する高校へ進学できるよう、最後まで努力を重ねていきたいです。

2つ目は卒業式です。私たちは、「進路実現」と「感動の卒業式」を学年の最大目標として、今まで過ごしてきました。誰からも応援される個人・集団になるよう、どんなことにも全力で取り組んできました。ここまで続けてきたことを残り3か月も忘れることなく、充実した日々を過ごすことで、きっと「このクラスでよかった。この学年でよかった。」と思って卒業することができると思います。もう2大行事のような大きな行事はありませんが、それだけが思い出ではなく、これからの日々も思い出となるように、最後まで3年生、受検生としての意識をもち、全員が悔いなく巣立つことができるように残りの3か月を過ごしていきたいです。



3学期の授業日数が50日しかないということは、今のクラスで、そして旭が丘中学校の生徒として生活できる時間も50日しか残されていないということになります。「このクラスになれてよかった。」「もっとこの仲間たちと一緒にいたい。」という思いで卒業の時を迎えてほしいと思います。そのためには、常に全員が同じ方向を見て、高い意識で毎日の学校生活を送ることが大切です。そんな日々を積み重ねることで、個人としても集団としてもさらに大きく成長し、学級目標の「満開」(1組)「花火」(2組)「夢限大」(3組)をしっかり達成してほしいと思います。



2学期の終業式の中で「旭中・学校奨励賞」の表彰がありました。今回は1年生3名、3年生3名が表彰されました。3年生では内山みのりさん(1組「模範となる行い」)。太田瑠菜さん(2組「学習訓」)。村松咲太郎君(3組「模範となる行い」)が受賞しました。表彰式では、1年生から順に呼名されていきましたが、残念ながら、1年生の受賞者の返事はほとんど聞こえてきませんでした。きっと大勢の前で名前を呼ばれることに緊張があったのだと思います。このような流れが続くと、その後の人たちはなかなか大きい声で返事をするできないという

ことはよくあることです。いよいよ3年生の名前が呼ばれる番です。山下先生の「内山みのりさん」という呼名に対して、「はいっ!!」というとても大きく、よく通る返事が体育館中に響き渡りました。それを聞いて、心の中で「よしっ。さすがだ。」と叫んでいました。その後の太田瑠菜さんも村松咲太郎君も表彰されるのに相応しい返事を響かせました。名前を呼ばれたら大きい声で返事をするのは当たり前と言えども、もしかたかもしれません。しかし、実際にはあのような状況では、そう簡単にできることではありません。でも3名の受賞者は簡単にやってみせました。手前味噌になりますが、あのような場面で、ああいう姿を示せることがこの学年の生徒たちのすごさであり、強みであると改めて実感することのできた2学期終業式の一場面でした。

さて、カレンダー上では私立高校入試まで28日。公立高校入試まで57日。卒業式まで72日です。最後の最後まで終業式での姿のような「3年生の底力」「格の違い」を示し続けてくれることを期待しています。そして、4月から始まる新しい生活に向けて大きく「飛躍」する3学期にしてほしいと思います。

## ☆入試説明会について

2学期の終業式の日文書でお知らせした通り、1月14日(木)に入試説明会を行います。会の中では、「今後の日程について」「私立高校のWeb出願について」「願書作成等の受検手続きについて」「受検上の注意事項について」等、重要な説明がたくさんあります。年明け早々のお忙しい中ではありますが、是非御参加くださいますよう、よろしく願いいたします。

なお、文書には会場が「ランチルーム」と記載してありますが、「体育館」に変更させていただきます。寒さが厳しいことも予想されますので、防寒具等の御用意をお願いします。昼休みに生徒が椅子の準備をしますので、開会時刻(午後1時45分)に合わせて、体育館にお集まりいただきたいと思います。日程等、その他の内容についての変更はありません。